

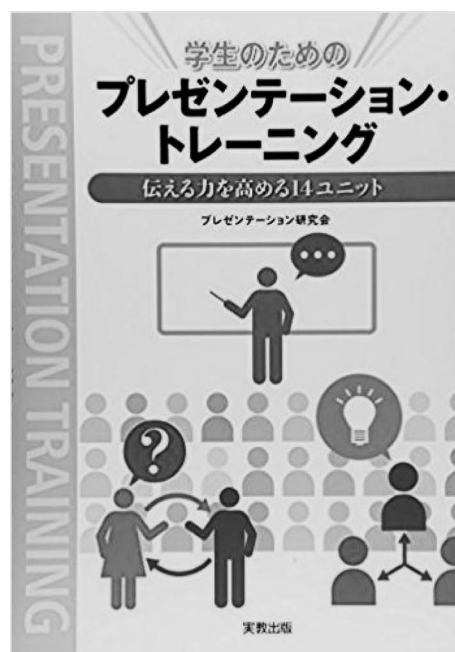
<会員による自著紹介>

学生のためのプレゼンテーション・トレーニング 伝える力を高める 14 ユニット

プレゼンテーション研究会
藤田直也・西谷 齊・森山智浩

近畿大学

実教出版株式会社 (2015 年発行)
定価 1,080 円 (税込)



近年、日本の教育現場ではアクティブラーニングの実践が提唱されている。中央教育審議会は、その定義を「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」としているが、アクティブラーニング実践の大前提はオーラルコミュニケーションであり、オーラルコミュニケーションの根幹には論理的思考がある。この二つの柱を「技術」として学習者に身につけさせる機会や方法論が必要であるのだが、それが教育の場に十分に提供されているとは言えないのではないだろうか。

本書はプレゼンテーションを中心に、上述の技術・方法論を段階的に演習形式で身につけることを目的としたワークブックである。ペアワークやグループワークといったアクティブラーニング的手法を多用しながら、論理を組み立て、的確に伝える力・表現力を身につけていく。

本書は(1)プレゼンテーション構造の理解、(2)主張の裏づけ方とアイデアの創出、(3)モノログからダイアログへ、と三段階のステップアップ形式をとり、構造の理解ではプレゼンテーションの根幹をなす三つの要素、すなわち聴衆の確認(誰に)、主張の提示(何を)、主張の根拠の提示(なぜ・どうやって)を身につける。主張の裏づけ方とアイデアの創出では、プレゼンテーションの肉付けとなる「根拠の提示」を典型的に身につける演習を提示する。最終的にはスピーチといった「モノログ」からディスカッション、ディベートといった、複数間でのコミュニケーション、つまり「ダイアログ」技術まで、演習を通し段階的に高めていく。大学の Semester に対応すべく、1 ユニット 90 分で完結し 14 ユニット構成としている。

加えて、オーラルコミュニケーションにおける論理的思考を文章・レジュメ作成にも展開し、総合的な自己発信力の向上を目指すべく構成されたのが本書の特徴であると言えよう。